

走ることと考えること ー卒業生へのメッセージー

09年3月25日、卒業式にあたって

「走る」ことと「思う」こととはつながっているようです。「思う」ために走るわけではないのですが、自然とそうなります。

村上春樹のこと トライアスロンに何度もチャレンジしている有名な作家がいます。村上春樹です。彼の『走ることについて語るときに僕の語ること』（文芸春秋）という風変わりな個人史（メモワール）のような本がありますが、そのなかに「僕自身について語るなら、僕は小説を書くことについての多くを、道路を毎朝走ることから学んできた」（113ページ）という一節があります。

ぼくはそこまでいきませんが、走りながら仕事のことよりは（本業から離れて）、どちらかといえば「私」を思うことは多いようです。ちなみに、この作家は1分間の脈拍が平常時に50程というから驚きます。トップランナーはもっと少ないですが、それでもランナーとしてうらやましい脈拍数といえます。

「思う」ことと「学ぶ」こと さて、「思う」ことといえば、「**学びて思わざればくらし**」という有名な孔子の言葉が浮かんできます。加藤周一は『学ぶこと思うこと』（岩波ブックレット）という本のなかで、この「思う」ことを次のように非常にかわりやすく説明しています。引用しましょう。

すなわち、「**教師が教えてくれるから学ぶのではない**。個人が**自分自身で問題を考えていて**、その問題を解くために**知識が必要だから学ぶ**のです。そのとき、知識は「**知的な道具**」に転化されるわけで、自分の見つけた問題を、その道具を使って解こうとするのです。「これが問題だ」と感じることを、これを日本語では「**問題意識**」といいます。ある**問題意識**が自分のなかにあり、そのことについてよく考えること、これが「**思ふ**」ことです」と。

さらに続けて、「それは確かに（外からー引用者）**与えられたものではなくて**、自分の**なかから出てきた問題意識**です。それがないと**本当の意味でものごとを理解する**ことにならない」（以上6-7ページ、傍点に注意）と。

この「**学びて思わざればくらし**」は「**思いて学ばざればあやうし**」とのセットで、中国での最高の大学院のモットーであったようです。今日にあっては、「**学びて思わざる**」に陥る傾向が強いだけに、こんな建学の精神をもつ大学はすばらしいと思いませんか。入学式や卒業式で必ず触れられたことでしょうか、その含意するものがとても大切です。

行動的禁欲 もう1つ「行動的禁欲」ということに触れておきたいと思います。有名な『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（マックス・ウェーバー）という古典があります。それを翻訳した大塚久雄はその解説のなかで、この行動的禁欲について「…オリンピックのマラソンにたとえている、あれです。他のあらゆることを忘れ、褒美を得るものとただゴールを目がけてひたすら走り続ける。つまり、あらゆる他のことがらへの欲望はすべて抑えてしまって——だから禁欲です——そのエネルギーのすべてを目標達成のために注ぎ込む、こういう行動様式が行動的禁欲なのです」（岩波新書、400-401 ページ）と述べています。ただ「**ひたすら走る**」ということは、（たんなる禁欲ではなく）ここで言う「**行動的禁欲**」に通じているように思います。

ちなみに、この本の「資本主義の精神」とはそうした「行動的禁欲」、世俗そのものの中における「世俗的禁欲」のことを言います。これが、実は近代の資本主義を生み出したエートス（倫理的雰囲気）だとウェーバーは言うわけです。しかし、近年の世界金融危機の根っ子に、それとは対極にある貪欲な資本主義（**greed capitalism**）が指摘されています。そこには、資本主義を生み出したその「精神」とはおおよそかけ離れた現代の資本主義の精神が見えます。

再び走ること ところで、先週、今春卒業する学生との卒業旅行（軽井沢）から帰って、「卒業するみなさんへ」とのメッセージを書きました。やはり「走る」ことに触れていますので、君たちへのメッセージの終わりに次の一節だけ紹介させていただきます。

「iPod でシャッフルされた曲を聞きながら、暇を見つけてはジョギングしています。自宅周辺の「せきれいのみち」、「ささぶねのみち」、「ゆうばえのみち」など、ときにカワセミ（「飛ぶ宝石」と言われる美しい鳥）にも出会う自然豊かな緑道を走っていますが、これから君たちの顔をふと思い出しながら走ることもあるでしょう。その iPod にはお気に入りの久石譲の音楽も入れていますが、特にピアノ曲「はつ恋」、「ballade」、そして「アシタカとサン」が流れてくると、なぜかこのままずっと走り続けていけそうな思いがしてくるから不思議です。」

先日の22日、第3回「東京マラソン」（3万5千人出場）が行われました。来年こそは iPod を付けて東京のど真ん中を走ってみたい、そう願っています。卒業生のみなさん、暇を見つけて走りましょう。そして思い出しましょう！

駒澤大学経済学部
石川純治